

組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

組織	里山振興室
職	室長
氏名	中村 弘和

組織の使命・役割	何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か
豊かな里山里海を未来に引き継ぎ、持続可能な形で積極的に利用するため、里山に新たな価値を創造することで、地域社会を維持し、生物多様性の保全につなげていく「元気な里山里海づくり」を推進する。	



組織の目標	使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値はどのような水準か				
(定性的目標)	何をどのような状態にしたいか				
①世界農業遺産「能登の里山里海」をはじめとする多様な地域資源を活用した生業づくりを支援する。 ②スローツーリズムの取組み等により人を呼び込む農山漁村づくりを推進する。 ③農山漁村の多面的機能の発揮と安全・安心な地域づくりを推進する。 ④鳥獣による農作物被害の防止に取り組む。					
(定量的目標)	具体的な指標、目標値を設定する				
目標とする成果指標	現行値	年(度)	目標値	年(度)	目標値の設定根拠(他県との比較など)
①里山振興ファンド採択件数(年間)	35 件	令和3 年度	26 件	令和7 年度	石川県長期構想、いしかわの食と農業・農村ビジョン2016
②農家民宿の年間利用者数	10,182 人	令和3 年度	20,000 人	令和7 年度	石川県長期構想、いしかわの食と農業・農村ビジョン2016
③捕獲イノシシのジビエ活用率	6.6 %	令和3 年度	10 %	令和7 年度	石川県長期構想、いしかわの食と農業・農村ビジョン2016
③中山間地域等直接支払交付対象面積	4,946 ha	令和3 年度	5,200 ha	令和6 年度	
③農地維持支払取組面積	26,129 ha	令和3 年度	27,000 ha	令和5 年度	
④鳥獣(イノシシ)による農作物の被害額の減少	27,835 千円	令和3 年度	34,000 千円	令和8 年度	第3期イノシシ管理計画(R4-R8、自然環境課) 農作物被害が急増する前の平成24年度の水準以下とする



令和4年度に重点的に取り組むべき課題	左記の具体的な内容を記載する
①いしかわの元気な里山里海づくり	里山振興ファンドを活用し、生業づくりを支援するとともに、国内の世界農業遺産認定地域との連携等により、「能登の里山里海」の魅力発信を図る。
②石川型スローツーリズムの推進	農家民宿を核に「食」をはじめとする里山里海の魅力地域で一体的に提供する「石川型スローツーリズム」を推進する。
③いしかわジビエの利用推進	捕獲されたイノシシ等のジビエとしての利活用を促進するとともに、「いしかわジビエ」としての普及を図る。
③農業・農村が持つ多面的機能の維持・発揮	中山間地域等の条件不利地域(傾斜地等)と平地とのコスト差(生産費)を支援する。
	多面的機能を支える共同活動及び地域資源(農地、水路、農道等)の質的向上を図る共同活動を支援する。
	環境保全効果の高い営農活動を行うことに伴う追加的コストを支援する。
④鳥獣被害防止対策	鳥獣(イノシシなど)による被害防止を図るため、防止計画を着実に実施する。